

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------|-----------|
| 黄緑色系ブドウ ハニービーナス の房型改善技術 | | | |
| 【要約】黄緑色系ブドウ ハニービーナス は、第2回目ジベレリン処理にフルメット液剤 10ppm を加用し、 <u>着粒数を 40 粒</u> にすることで、房型が良くなり商品性が向上する。 | | | |
| 農業技術振興センター・花・果樹研究部・果樹担当 | | 【実施期間】 平成 22 年度 | |
| 【部会】 農産 | 【分野】 高品質化技術 | 【予算区分】 県単 | 【成果分類】 普及 |

【背景・ねらい】

夏期の高温によりブドウの着色不良が予測されることから、果皮着色に影響されない黄緑色系ブドウとして、本県では ハニービーナス を有力視している。しかし、ハニービーナス は、他の大粒系品種と比べ房のボリューム感に欠けるという欠点がある。

そこで、第2回目ジベレリン処理時に加用するフルメットの濃度と着粒数を調整することによって、ボリューム感のある ハニービーナス の生産技術の確立を目指す。

【成果の内容・特徴】

満開 10～15 日後に行う第2回目ジベレリン処理にフルメット液剤 10ppm を加用し、着粒数を 40 粒にすることで、房重の増加と房型が改善され、商品性の高い房型 4 以上の果房割合が高まる（表 1、表 2、図 1）。

糖度は、フルメット液剤の濃度 10ppm では、20.0Brix%以上である（表 1）。

【成果の活用面・留意点】

本技術の利用によりボリューム感のある ハニービーナス の生産が可能となり、他の大粒系品種とのセット販売が容易になる。

フルメット液剤の濃度を 10ppm にすることで、果皮色の色抜けがやや悪くなるので、収穫遅れに注意する。

[具体的データ]

表1 フルメット濃度と着粒数の違いが ハニーピーナス の房型および果実品質に及ぼす影響

| 処 理 区 | 房型 | 房重 (g) | 着粒数 (粒) | 軸長 (cm) | 着粒密度 (粒/cm) | 一粒重 (g) | 糖度 (Brix%) |
|--------------------------|-----|-----------|------------|------------|----------------|------------|---------------|
| G A25ppm+F M 5ppm / 30粒区 | 2.5 | 302.5 c | 30.9 | 7.6 | 4.1 | 9.8 b | 21.1 |
| G A25ppm+F M 5ppm / 40粒区 | 3.4 | 416.2 a | 39.6 | 10.1 | 3.9 | 10.6 a | 20.9 |
| G A25ppm+F M10ppm / 30粒区 | 2.6 | 346.2 b | 30.8 | 7.7 | 4.0 | 11.0 a | 20.2 |
| G A25ppm+F M10ppm / 40粒区 | 3.9 | 425.6 a | 39.0 | 10.1 | 3.9 | 10.7 a | 20.3 |

* GA:ジベレリン水溶液, FM:フルメット液剤

* 房型は5段階(5:極良,4:良,3:普通,2:やや不良,1:著しく不良)に分類した写真(図1)をもとに評価した。

* 表中の異なる英小文字間はTukeyの多重検定で有意差(5%水準)が有ることを示す。

表2 フルメット濃度と着粒数の違いによる ハニーピーナス の房型評価が4以上の収穫果房率

| 処 理 区 | 収穫果房率(%) |
|-------------------------|----------|
| G A25ppm+F M 5ppm/30粒区 | 0.0 |
| G A25ppm+F M 5ppm /40粒区 | 38.5 |
| G A25ppm+F M10ppm /30粒区 | 2.4 |
| G A25ppm+F M10ppm /40粒区 | 74.3 |

* G A25ppm+F M10ppm /40粒区における房型評価別の果房数は、

5極良:6房,4良:20房,3普通:7房,2やや不良:2房,1著しく不良:0房の計35房



図1 ハニーピーナス の房型 5 段階評価の分類

[その他]

・ 研究課題名

大課題名：消費者の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：温暖化に対応し得る水稻・園芸作物の栽培技術の確立

・ 研究担当者名：鈴木 悟 (H21～22)

・ その他特記事項：